令和６年度事業報告

（令和６年５月１日～令和７年４月 30 日）

I. 学術講演会等の開催

1.　第 66 回学術講演会

日　　時：　令和６年７月 18 日（木）～7 月 20 日（土）
（WEB 開催：～8 月 20 日（火））

会　　場：　城山ホテル鹿児島（鹿児島市）
WEB 併催

参加者数：　2,696 名（会場参加者　1,848 名）

演題数：　一般演題口演（日本語）：308
一般演題講演（英語）：33
一般演題ポスター（日本語）：302
一般公演ポスター（英語）：37
高得点演題口演(日本語)：24
病理症例検討会採用：10

令和４年にコロナ禍においてリアル開催と Web を融合させたハイブリッド方式が第 64 回学術講演会（久留米市）で初めて本格的に導入されて以降、本会では、ハイブリッド方式を採用している。第 66 回は、現地での参加者が増え、会員同士の相互交流が盛んに行われ、活発な討論や質問を促進した。シンポジウム、特別講演、招請講演、会長講演、Meet the Next Innovation、Meet the Asian Experts、Meet the Asian Rising Stars、野澤記念研究助成受賞講演、手術ディベートセッション、卵巣がん・卵管癌・腹膜癌治療ガイドライン 2025 年度版 コンセンサスミーティング、JESGO セッション、Winter Gathering、Tumor Board、感染対策セミナー、医療倫理セミナー、ハンズオンセミナー、ワークショップ、JGO セッション、教育プログラム、病理症例検討会、指導医講習会を行った。市民公開講座は参加者の便宜を図り『子宮頸がんワクチンで守れる女性の人生、赤ちゃんの命』と題し、2024 年９月８日（日）鹿児島県医師会館４F 大ホールで行った。

2.　第 11 回研修会

日　　時：　令和６年 12 月２日（月）～12 月 16 日（月）
WEB 開催

参加者数：　848 名

教育プログラム C（C-1 患者教育、C-2 生命倫理・法的規制、経済的側面、C-3 子宮頸がん・腟がん・外陰がんの薬物療法、C-4 子宮体がんの予防・診断、C-5 卵巣がん・卵管がん・腹膜がんの手術、C-6 卵巣の境界悪性腫瘍・胚細胞腫瘍・性索間質性腫瘍の診断・治療、トピックス　HPV 検査単独法）をオンデマンド配信で実施した。

3. 内視鏡手術手技研修会

本邦における婦人科腫瘍医の内視鏡手術手技のスキル向上と均霑化を目指し、第66回学術講演会中にハンズオンセミナーを開催した。鏡視下手術の基本を学べる Basic コースと、「骨盤解剖モデル」を使用したAdvancedコースの2コースを行った。講義は、e-learningで受講し、婦人科腫瘍専門医取得、更新の必須項目である。

4. コルポスコピー研修会

コルポスコピーや下部女性生殖器についての知識に関する教育普及を行い 、子宮頸部腫瘍に精通した医師を育成するために、年1回のコルポスコピー研修会を開催している。3回目となる本年は、3か年計画で行ってきたセミナーの最終回となる。今回も、子宮頸部病理・コルポスコピー小委員会(JSGO-CCCP)の委員長やシニア委員の指導を受け、若手委員も講師を担当した。今後も若手の育成に力を入れていく。

日　　時：　令和7年1月12日（日）

会　　場：　東京慈恵会医科大学2号館講堂

参加者　：　104名

プログラム

HPV検診導入に向けて

HPV検査、型別の特徴やガイドラインの変遷、世界の動き

病理検体提出方法の基本

～病理医から婦人科医へ伝えたいこと～

SIL/CIN 再考　概念と用語の変遷

世界のQIとガイドライン

コルポスコピーを受ける患者の気持ち

検診異常・コルポスコピーを受ける患者の気持ち

臨床実地問題

5. 教育委員会主催WEBセミナー

本年度も教育委員会WEBセミナーを、ZOOMウェビナーを利用して実施した。ガイドライン、手術、病理、臨床研究、薬物療法、画像、放射線、がんと生殖のカテゴリーで1時間、1人ないし2人の講師によりライブ配信した。また、SGO2025、ESGO2025に参加した会員の講演も行い、最新の情報を共有し好評を得た。ライブ配信した講演をe-academyとしてHPに掲載し、見逃した会員、再度見直したい会員が視聴できるようにしている。

6. Winter Gatheringの開催

将来の婦人科腫瘍分野の診療、研究、教育を牽引していく若手医師の意見を抽出し、本会の将来におけるより良い役割、今後の方向性、継続性を模索するため、幅広い施設から若手医師に参加してもらい第2回を実施した。

日　　時：令和7年1月25日（土）～26日（日）

会　　場：ホテルメトロポリタン盛岡本館

ANAクラウンプラザリゾート安比高原

参加者：　28 名

4 つのテーマ（婦人科腫瘍専門医の中でのサブスペシャリティ、モチベーション、CST、お互いに何を考えているのかよく知ろう、地域からみてみる）でグループに分かれ討論を行った。第 67 回学術講演会で成果発表を行う。

II. 機関誌及び論文図書等の発行

1. 機関誌「日本婦人科腫瘍学会雑誌」の発刊について

発行年月日	巻	号	発行部数
令和 6 和年 6 月 25 日	42	3	オンラインジャーナル
令和 6 年 10 月 25 日	42	4	オンラインジャーナル
令和 7 年 1 月 25 日	43	1	オンラインジャーナル
令和 7 年 4 月 25 日	43	2	オンラインジャーナル

2. ガイドラインの発行について

本年度のガイドラインの発刊は無かった。昨年度、改訂に着手した「卵巣がん・卵管癌・腹膜癌治療ガイドライン 2025 年版」の改訂をすすめた。コンセンサスミーティングを行い、評価委員の評価、パブリックコメントで意見をもらい協議を行った。令和 7 年 7 月の発刊予定である。また、子宮頸癌治療ガイドライン 2022 年版の CQ19 の update の検討を行い、2027 年版作成の協議を行った。

3. 英文誌について

令和元年にオフィシャルジャーナルとなった Journal of Gynecologic Oncology（JGO）の編集協力を行い、年間 6 回（奇数月）に発刊（オンラインジャーナル）を行った。

III. 婦人科腫瘍学に関する調査研究及び教育の助成

1. 野澤記念研究助成

令和 7 年度の研究助成対象者を研究助成選考小委員会で審査をした結果を理事会で報告し、対象者を決定した。応募者は 9 名であり、3 名に助成する。

IV. 婦人科腫瘍専門医及び医療機関の認定

1. 専門医の認定

専門医制度規則・細則に基づき、専門医試験を実施した。申請の対象者は、当会が認定した指定修練施設において 3 年以上の修練を行ったものである。試験は令和 6 年 12 月 15 日（日）に筆記試験 100 問と口頭試問（面接官 2 名）で行われた。試験終了後、同日に資格認定委員会を開催し、申請者に対する合否の判定が行われた。

受験者 94 名　合格者 84 名　不合格者 10 名

2. 専門医の更新・再認定

専門医制度規則・細則に基づき、更新の申請を提出した 182 名と再申請 2 名に対し、令和 7

年3月3日(月)に資格認定委員会を開催し、審査を行った。
170名が専門医資格更新、2名が再認定となり、10名は更新の要件を満たしていないため、1年間の更新保留とした。また、更新申請の提出がなかった7名は専門医資格を停止とした。

3. 指定修練施設の認定

専門医制度規則・指定修練施設認定施行細則に基づき、申請書類を提出した9施設に対し、令和6年6月13日(木)に指定修練施設認定委員会を開催し、審査を行った。4施設をA施設認定、4施設をB施設認定、1施設を症例数の不足により認定不可とした。また、更新に関して、40施設から更新申請があり、26施設がA施設、14施設をB施設として条件を満たしていたため更新を認めた。

4. 専門医試験を合格し認定を受けた84名、更新170名、再認定2名に対し、認定証の交付を行い、登録の手続きをした。また、当会HPの専門医一覧に公開をした。

5. 指導医の認定

専門医制度規則・細則に基づき、令和7年3月3日(月)に認定審査を行った。申請書類を提出した44名に対し審査を行い、43名を合格とし、認定証の交付を行った。指導医更新は、申請をした189名のうち181名の更新を認め、論文が要件を満たしていないと判定された１名を保留とし、指定修練施設に在籍していない7名を停止とした。また、申請がなかった144名の資格を停止とした。

6. 試験問題の作成

令和元年に作成した専門医制度規則試験問題作成施行細則に則り、試験問題作成委員を選出し、問題作成を依頼した。WEB会議にて問題選定と修正を郵送とWEB会議で行い、問題を事務局から出すことを禁じられている段階からは、委員長が事務局に行き、問題の修正と確認を行った。試験終了後に、作成方法に問題がなかったかをモニタリングし、監事に報告した。

V. 国際および国内関係学術団体との連絡及び提携

【国際渉外事業】

1. 令和6年1月10日International Gynecologic Cancer Society (IGCS)とのアライアンスを締結したことに伴い、本会の会員は自動的にIGCSの会員資格を付与されているので、IGCS若手チーム（9名の若手医師）を新たに結成し、積極的に活動に参加している。

① Project ECHO (Extension for Community Healthcare Outcomes)
2024年12月よりIGCS若手チームおよび病理チームで、エチオピア（第1木曜日）とケニア（第3水曜日）のTumor Boardへ参加を開始した。本邦からの症例発表も検討していく。

② Early Career Research Network & Publication Network
Junior Mentorとなっている会員を中心に子宮頸がんの調査研究を行う。JSGO会員に対してもアンケート調査を行なっている。

③ Education360
本会理事が作成した手術動画（Current Status and Future of Robotic Surgery）を

IGCS に提出した。また、IGCS 若手チームを中心に、E-academy 動画を参考に Education360 動画を作成して投稿するための準備を開始した。

④ 渉外委員の１名を、「Surgical film library for the Education360 Learning Portal」のメンバーとして推薦した

2. 2027 年の IGCS (International Gynecologic Cancer Society) の Annual Global Meeting 誘致を積極的に行うことを決定した。

3. ASGO 若手チーム（８名の若手医師）を新たに結成し、ASGO の Education Committee/Guideline Committee/WG for Clinical Study/WG for Surgery に参加して活動を開始した。

4. 2025 年 7 月 17 日から開催される ASGO 2025 の準備を会長を中心に進めている。バリ（インドネシア）で開催された ASGO 2024 にも多くの会員が参加し PR 活動を行った。

5. KSGO2025(韓国　ソウル)に、若手医師２名が Young Doctor Awards として、5 名が Official Invite として招待を受け参加した。

6. IGCS2024（アイルランド ダブリン)、ASGO2024（インドネシア バリ)、ESGO2025（イタリア ローマ)、SGO2025（アメリカ シアトル）への海外学会参加補助を行った。ESGO2025 と SGO2025 は、参加補助を受けた会員が WEB セミナーで報告を行った。

【国内渉外事業】

1. 令和 6 年度診療報酬改定に関して、外保連・内保連、関連学会と連携、協力を行った。

2. 日本産科婦人科学会、日本産科婦人科内視鏡学会と合同で行っている JESGO 運営委員会では、2024 年 1 月に運用を開始した JESGO システムの改修、広報、追加システムに関しての協議を行っている。

3. 予防接種専門協議会の会議に参加し、会員への情報発信を行っている。

4. 2025 年 10 月 16 日（木）～18 日（土）パシフィコ横浜（横浜市）で開催される第 63 回日本癌治療学会学術集会の臓器別セッションプログラム委員を募集し、14 名の応募者および 5 名の推薦者でプログラム委員会を発足した。臓器別セッションとして 4 つのセッション(①手術療法、②新規薬物療法、③子宮体癌新分類、④その他)の検討を行った。最終的にセッションの内容をまとめたレビュー論文の投稿を目指す。

VI. その他、本会の目的を達成するために必要な事業

【総務委員会】

1. 令和 7 年度の名誉会員・功労会員の推戴の件、第 69 回学術集会集会長の再選出の件、第 70 回学術集会会長選出の件、会員の資格喪失者の件について協議を行った。

2. 厚生労働省後援リンパ浮腫研修 E-LEARN の次期(2025・2026 年度)研修運営委員選出委員推薦依頼があり、2 名の会員を継続推薦した。

3. 日本病理学会より「子宮頸部上皮内腫瘍 p16 免疫染色ガイダンス策定 WG（仮称)」の委員推薦依頼があり、2 名の会員を推薦した。

【利益相反小委員会】

1. 理事長・副理事長・理事・監事)、学術集会会長、次期学術集会会長、次次期学術集会会長、各種委員会委員長、各種ワーキンググループ委員長、社会保険委員、倫理委員、ガイドライン委員、利益相反委員、編集委員から提出された、令和4年1月～12月の自己申告書の提出の確認を行った。

2. 電子申請導入のため、オンラインストレージの検討と試験運用を行い、使用を開始した。

【学術委員会】

1. 学術講演会事後評価委員会を設置し、第 66 回学術講演会に関して参加者にアンケートを実施した。アンケート回答に関して解析し理事会に報告した。

2. 第67回学術講演会のプログラム委員会を発足し、プログラムの協議を行った。

3. 第66回学術講演会での病理症例検討会の反省と、第67回への引継ぎを行った。また、コメンテーターの選出を行い、レビュー会議を実施した。

4. 第 67 回学術講演会の病理症例検討会およびレビュー会議で使用する顕微鏡を購入した。また、顕微鏡の保管業者を選定し、倉庫も確保した。

【教育委員会】

1. 教育プログラムの内容検討、第11回研修会を実施した。

2. 令和2年度より開始したWEBセミナーを開催した。WEBセミナーの動画をe-academyとしてHP上に掲載し、会員の勉強に役立ててもらっている。

3. 令和5年度に応募したMSD株式会社の医学教育事業助成の事業を行った。

① 第66回学術講演会内でTumor Boardを実施した。
実際の症例の診断を婦人科医が説明。病理医と放射線医が診断を行い、婦人科医と腫瘍内科医が治療について論じた。会場の参加者がアンサーパットで治療に関しての意見を投票し、議論を行った。

② 「基礎からわかる婦人科腫瘍薬物療法」の　動画収録を行い、HP上に公開した。

＜収録したプログラム＞

子宮体癌：TC,AP,DP療法

子宮頸癌：TC＋Bev.＋Pem

卵巣癌：プラチナ感受性

卵巣癌：プラチナ抵抗性再発卵巣がんへの治療戦略

卵巣癌に対する薬物療法　PARP阻害薬とVEGF阻害剤

BEP療法

子宮頸癌：CCRT

子宮頸癌CCRT時のweekly CDDP

子宮体癌：MPA

レンバチニブ-ペンブロリズマブ療法

卵巣癌：TC＋Bev.

【手術手技研修小委員会】

1.第 66 回学術講演会でハンズオンセミナーを実施した。Basic コース（安全なトロッカー挿入、鉗子操作、腟断端モデルを使用した縫合・結紮実習）Advanced コース（骨盤解剖モデルを用いた実習　子宮体癌を想定した実習を行う）の 2 つのコースを実施した。

2. 日本婦人科ロボット手術学会プロクター制度委員会より、プロクター共同認定の依頼があり、認定を行った。

【子宮頸部病理・コルポスコピー小委員会】

1. 令和 5 年に開始したコルポスコピーテキストの作成を継続して行っている。
2. 令和 7 年 1 月 12 日（日）に第 3 回コルポスコピーセミナーを開催した。
3. IFCPC の e-learning の日本語版翻訳を行なっている。
4. 第 67 回学術講演会で IFCPC の講師によるセミナーの開催のための協議と準備を行った。

【編集委員会】

1.和文誌の発刊を行った。
2.機関誌の査読員へのインセンティブ付与の一環として和文誌および英文誌（Journal of Gynecologic Oncology）の Best Reviewer Award 、和文誌の Best Reviewer Award の受賞者の選定を行った。
3.英文誌（JGO）への協力の方法、会員への投稿数を増加させる方法の検討を行った。

【倫理委員会】

1. 日本医学会連合研究倫理委員会作成の『学術集会への演題応募における倫理的手続きに関する指針』に沿った，本学会学術講演会の演題募集の際の新たなフォームについて検討を行った。次年度からの導入に向けて準備を進めている。

【社会保険委員会】

1. 令和 8 年度診療報酬改定の要望項目の協議と検討を関連学会と行った。
2. 公益社団法人日本産科婦人科学会および一般社団法人日本病理学会と子宮体癌分子生物学的診断に関する意見交換を行った。

【広報委員会】

1. WEB セミナーのオンデマンド閲覧ページ JSGO E-academy や、患者教育のための教育アニメーション動画の閲覧数を増やすための広報活動を行っている。
2. 国際学会に関する案内および国際学会参加者同士がつながることができるページを作成した。幹事の負担が大きいため、自動で行うシステムの構築を行っている。
3. 学会ホームページの一般閲覧者に向けた「市民の皆さまへ・HPV ワクチン Q&A」の内容のアップデートの協議を開始した。

【ガイドライン委員会】

1.委員会開催

① 令和 6 年 8 月 1 日(木)に第 1 回ガイドライン委員会を行い、今後のガイドライン発刊に関して協議を行った。
② 卵巣がん・卵管癌・腹膜癌治療ガイドライン 2025 年版改訂委員会

・令和6年7月1日（月）第8回ガイドライン作成委員会（全体会議）
・令和6年7月9日（火）第9回ガイドライン作成委員会（コンセンサスミーティング対策会議
・令和6年9月25日（水）第10回ガイドライン作成委員会（コアメンバー会議）
・令和7年1月7日（火）第11回ガイドライン作成委員会（コアメンバー会議）
・令和7年1月9日（木）第12回ガイドライン作成委員会（コアメンバー会議）
・令和7年1月15日（水）第13回ガイドライン作成委員会（コアメンバー会議）
・令和7年4月4日（金）・5日（土））第14回ガイドライン作成委員会（最終会議）
・令和5年12月25日（月）第4回コアメンバー会議
・令和6年3月4日（月）第5回コアメンバー会議
・令和6年6月26日（月）第6回コアメンバー会議

③ 子宮頸癌治療ガイドライン2027版改訂委員会
・令和7年4月16日（水）第1回コアメンバー会議

2. 論文の執筆
子宮体がん治療ガイドライン2023年度版の英語バージョンがJGO誌に掲載された
（J Gynecol Oncol 2025;36(3):e119）

3. 転載
令和6年5月1日～令和7年4月30日まで、37件の転載許諾依頼を承認した。

【JESGO運営委員会】
1. 令和5年度に本運用を開始した。本年度はシステムを使用している施設の対応と、未開発部分の開発を行った。また、第66回の本会学術講演会をはじめ、各学会において講演を行うとともに、本会HP上の記載を整備し、JESGOの普及活動に努めた。
2. 事業の継続性や今後の普及を考え、若手委員の公募を行い、新たな委員を追加した。
3. JESGO運営委員会規則を策定した。

【がんゲノム医療、遺伝性腫瘍診療の適正化に関するワーキンググループ】
1. 厚労省保健局医療課へミスマッチ修復機能タンパク免疫染色検査の保険対象について、進行または再発子宮体がんの治療開始前の時点で保険診療下にて実施可能となるよう要望した。
2. 令和元年のがん遺伝子パネル検査の保険収載から5年を経て、がんゲノム医療の現状の理解と婦人科がんにおいて今後取り組むべき課題を明確にする目的に、診療実態調査を依頼した。あわせて、昨年度実施したHBOCに関するアンケートを踏まえ、STICについての追加アンケートを依頼した。
3. 子宮体癌の分子分類等の普及を見据え、日産婦の「がんゲノムと新しいがん薬物療法に関する小委員会」と合同WGを設置し、「婦人科がんにおけるバイオマーカー検査の手引き」として子宮体癌に焦点をあてて草案を作成した。
4. 「Lynch 症候群診断の治療方針への影響および臨床的有用性」について、日本癌治療学会、大腸癌研究会（JSCCR）との協議を開始した。

【卵巣がんに対する鏡視下手術の保険収載に向けたワーキンググループ】

1. 腹腔鏡下付属器悪性腫瘍手術の保健収載を目的に、先進医療 A を申請した。令和 6 年 9 月 5 日の第 135 回先進医療会議において、大分大学（小林栄仁委員）を主たる医療機関として、『卵巣がんに対する腹腔鏡下卵巣癌・卵管癌・腹膜癌根治術』先進医療として「適」との採決を得た。なお、先進医療の施設基準は、日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医（腹腔鏡）の手術参加を必須とはせず、日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医の手術参加となった。

2. 令和 7 年 3 月 6 日（木）先進医療スタートアップ会議を行った。

3. 令和 7 年 3 月 11 日（火）日本産科婦人科学会の HP に「卵巣がんに対する先進医療として開始する腹腔鏡手術についての指針」を公開した。

【若手ワーキンググループ】

1. 令和 7 年 1 月 25 日（土）・26 日（日）に第 2 回 Winter Gathering を開催した。成果を第 67 回学術講演会で発表する。
2. 準備委員会を開催
   - ・令和 6 年 6 月 10 日（月）
   - ・令和 6 年 8 月 28 日（水）
   - ・令和 6 年 12 月 3 日（火）
   - ・令和 7 年 1 月 20 日（月）
   - ・令和 7 年 3 月 12 日（水）

【婦人科医以外の会員増加に関するワーキンググループ】

1. 婦人科腫瘍の診療に関連する多様な先生方に本会の学術講演会に参加してもらえるように、学術講演会プログラム委員会に病理医、放射線科医、腫瘍内科医に参画してもらうことを学術委員会に依頼した。第 68 回から参画してもらう。

2. 若手 WG や多彩なキャリアを支援する WG と協働して、「Winter Gathering」や「婦人科腫瘍医を目指す医学生と若手医師をサポートする座談会」の拡充に努めることを協議した。

【多彩なキャリアを支援するワーキンググループ】

1. 第 1 回婦人科腫瘍医をめざす医学生と若手医師をサポートする座談会を令和 6 年 11 月 2 日（土）に開催した。

   ＜座談会アジェンダ＞
   - ・開会の挨拶
   - ・専門医制度について
   - ・ロールモデル 4 名のプレゼンテーション
   - ・日本医師会女性医師バンク紹介
   - ・ブレークアウトルームに分かれて座談会（4 グループ）
   - ・各グループのファシリテーターによる座談会のまとめ
   - ・全体のまとめ
   - ・閉会の挨拶

【センチネルリンパ節生検普及ワーキンググループ】

1. 婦人科腫瘍学会 HP 上で既に公開している「婦人科悪性腫瘍センチネルリンパ節ナビゲーション手術の指針」の改訂を行った、各施設のよくある疑問を整理できるような FAQ を追加し、またこれからセンチネル手術の導入を考えている施設の問い合わせ先を設定した。

令和 6 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないため作成しておりません。

令和 7 年 7 月

公益社団法人日本婦人科腫瘍学会